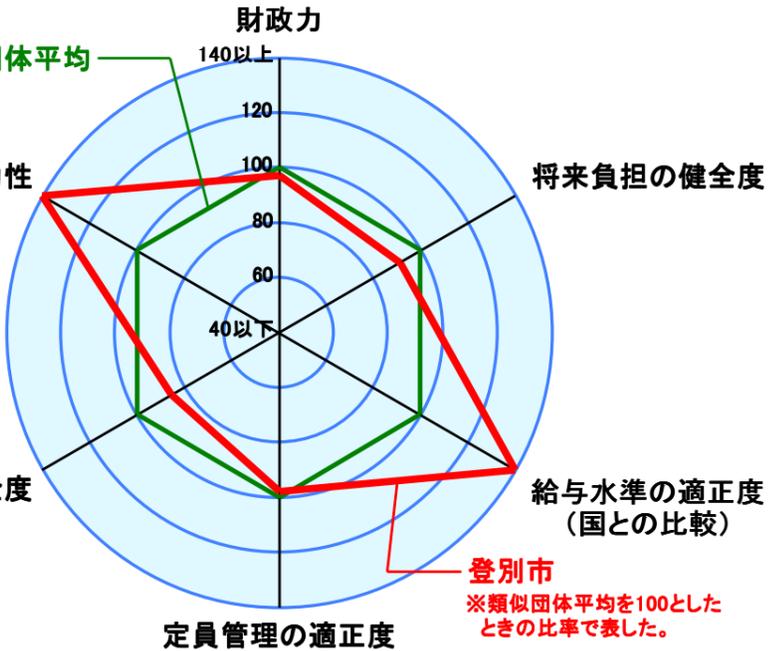
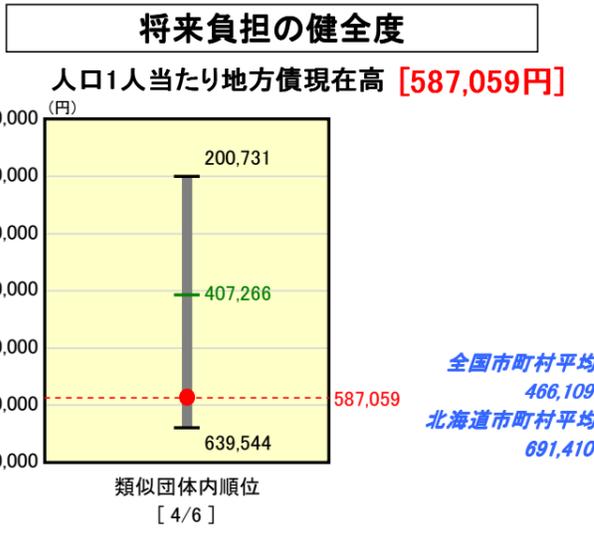
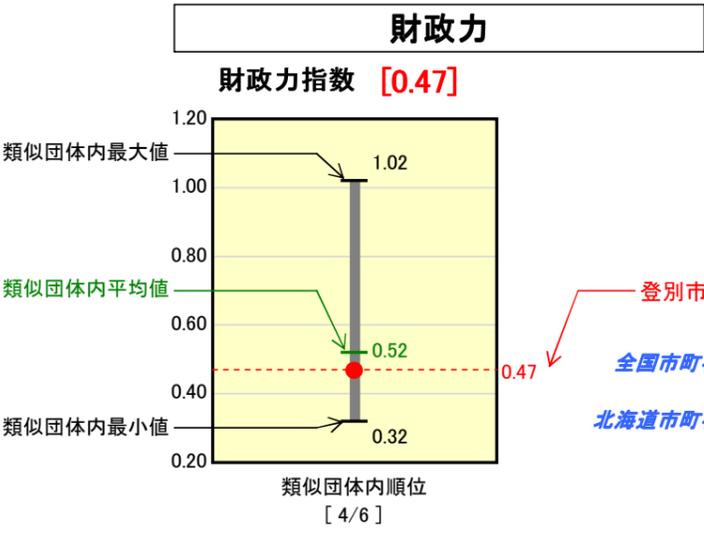


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

北海道 登別市

人口	53,923 人(H17.3.31現在)
面積	212.11 km ²
歳入総額	21,668,211 千円
歳出総額	21,103,455 千円
実質収支	542,046 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

財政力 (財政力指数) : 財政基盤の弱さに加え長引く景気の低迷による市税収入の減少により、類似団体の平均を下回っている。市内経済の活性化により税源の確保に努めるとともに、徴収体制の強化等による市税等の徴収率向上を図り歳入確保に努める。

財政構造の弾力性 (経常収支比率) : 人件費の独自削減や職員数の削減、事務事業の見直し等を実施してきたにもかかわらず年々悪化している状況にある。市民との協働による役割の分担やさらなる行政改革の推進により、行政のスリム化・効率化を図り、経常経費の削減に努める。

公債費負担の健全度 (起債制限比率) : 近年のごみ焼却施設や最処分場施設の建設等大型事業により、公債費が増加している。平成20年度には約34億円とピークを迎えることから、新たな市債の発行を抑制し、財政の健全化に努める。

将来負担の健全度 (人口1人当たり地方債現在高) : 類似団体の平均額を大きく上回っている状況にあり、新たな市債の発行を抑制し、財政の健全化に努める。

給与水準の適正度 (ラスパイレス指数) : 給料(管理職4.5%その他3.5%)、期末勤働手当(5%)、退職手当(5%)、管理職手当(10~15%)等の独自削減などにより、類似団体中最低の給与水準となっている。

定員管理の適正度 (人口1,000人当たり職員数) : 民間委託の推進等により、職員数の削減を(H14:13人、H15:5人、H16:17人)実施し、類似団体のほぼ平均に位置しているが、今後も組織機構の見直し等を行い、さらに職員数の削減に努める。

